

「米中北朝鮮の一觸即發の緊張状態をどう見えていますか？」

平成 29 年 5 月 2 日

●熊五郎さんからの質問

質問と云ふよりは感想です。先週は米中北鮮が一觸即發の緊張状態が、(さう見せるための?) 政治の力學から日本海側に作り出されました。ミサイルと核なり化學兵器なりを飛ばす能力を持つた「國」とさうでない國のどうしやうもない差を見せつけられた先週でした。言ひたくはありませんが、「保護領」と云ふのが今の日本の實態であることが實感されました。政府なり、議會なりで仕事をしてゐる與黨の政治家の皆さんはどうあれ忍耐強い事だと思ひます。現憲法は憲法とは言へない、と云う事を仰つてみた渡部昇一氏の訃報に接し、残念なことだと思ひ、氏の冥福を祈りました。ご自愛專一にてご活躍下さい。

●西田昌司の答え

北朝鮮はとんでもない国—国というよりも金王朝とでも呼ぶべきでしょう—なのですが、王朝を守るためには人民や他國が犠牲にならうが手段を選ばず、核と大陸間弾道ミサイルを手に入ればアメリカも手出しできないだろうと踏んでそれらの開発に血道を上げています。こういった國が日本のすぐ隣にあることを日本人は直視しなければなりません。これまでは北朝鮮の背後には中国がいるとされてきましたが、現在の北京政府に北朝鮮をコントロールする力がないことは最近の北朝鮮の暴走を見れば明らかです。

一方の韓国では、朴槿恵大統領が罷免されて大統領選挙が現在繰り広げられています。文在寅候補と安哲秀候補のどちらが当選するのか現時点ではわかりませんが、どちらになっても日本にとっては(いわゆる従軍慰安婦の問題をはじめとして) 厳しい状況になると思ひます。

歴史を振り返ると、朝鮮半島情勢が日本の安全保障の要となってきました。明治維新が終わった頃に日清・日露戦争が起こりましたが、これらの戦争は朝鮮半島情勢に起因するものでした。1894年の日清戦争当時、清は朝鮮を属領と見なしてしまいましたが、日本は朝鮮が清の属領のままでは日本にとって危険だと考え、清の支配から脱するよう働きかけていました。しかし清はいつまでも朝鮮を属領とする方針を変えなかったため、結局、日本と清の戦争にまで発展したのです。日本は陸戦・海戦ともに清に圧倒的に勝利して、1895年に日清両国は下関条約を結び、清は朝鮮の独立を認めました。

日清戦争を遡ること10年前の1884年、日本の明治維新にならって近代化を進めようと金玉均らのクーデターが朝鮮において起こりましたが、清の軍隊によって鎮圧されたという経緯があります。日本は、金玉均らの開化派に働きかけて朝鮮の近代化政策を支援していましたが、それを許さない清との抗争が日清戦争の下地としてあったのです。朝鮮政府の中には、金玉均らの開化派に反感を抱く守旧派もたくさんおり、朝鮮も内部では割れていました。朝鮮半島の混乱に巻き込まれて清との戦争にまで至ることになった日本ですが、日本は後にロシアとも戦火を交えることになります。

19世紀末、ロシアは不凍港を求めて東アジアに目を向け始めていました。シベリア鉄道の建設に着手したり、朝鮮半島に入って鉱山・鉄道敷設・租借地などの利権の獲得に必死となっていました。南下するロシアに日本は危機感を抱き、ロシアと同盟を結んで穏便に済ませようという意見があったものの、結局はロシアとの同盟ではなくイギリスと同盟を結んでロシアと戦う道を選びました。1904年、日本はロシアに国交断絶を通告して日露戦争が始まりましたが、国力の差を克服して日本はこの戦争に勝利し、1905年に結ばれたポーツマス条約で日本は朝鮮半島の主導権をロシアに認めさせるまでになったのです。

朝鮮は1897年に国号を李氏朝鮮から大韓帝国（韓国）に改めています。日本政府は、日本の安全保障のためには韓国の安定が必要だと考え、1910年に日本が韓国を併合しました。朝鮮半島が自分の国をしっかりと治めてい

れば韓国併合の必要もなかったのだと思います。

現在では、北朝鮮は国としての体裁などかなぐり捨てて金一族の存続のためだけに必死になっていますし、大韓民国（韓国）の文在寅大統領候補の両親は朝鮮戦争中に北朝鮮側から脱北した避難民で、文在寅候補は北朝鮮寄りの人物だと聞いています。今の朝鮮半島の混乱を見ていると、過去の朝鮮半島における混乱の再来の感があります。

朝鮮半島の混乱に比べると我が国の状況はまだまともと言えますが、敗戦後の日本は国防安全保障を自国では達成できない国に成り下がってしまっています。アメリカとソ連が熾烈な覇権争いをしていた冷戦時代は北朝鮮のような国が暴走するようなことはありませんでした。二大大国が対立することでパワーバランスが保たれて表面上は平和な時代であったと言えますが、各地域でいろいろな火種をかかえ込んでいる時代を我々は生きていますし、現に我々の目と鼻の先には北朝鮮という核やサリンなどの化学兵器を他国に撃ち込まんとする国があるのです。ただ平和を唱えれば済むといった時代はとうの昔に過ぎ去っているのだ、と日本人はもうそろそろ気付かなければなりません。

日本人は国を守ることにアレルギーを持った人が非常に多いですし、これは国会議員でさえも例外ではないのです。しかし、国民の生命・財産・名誉を守るのが国会議員の使命でありますし、そういった覚悟の上での議論が本来はなされるべきです。北朝鮮危機、これからどのようになるか予想もなかなか難しい、予断を許さない状況が続くと思いますが、これを機に我々は政治の原点を見つめ直さなければなりません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>